

2009. 1. 30 第46号



地域づくりコミュニケーション
— 農村振興メールマガジン —

農林水産省農村振興局



◆◆ 目 次 ◆◆

【 農村振興支援情報 】

- 農山漁村における雇用対策について

- 平成21年度農村振興局予算概算決定の概要
 - ◇平成21年度農村振興局予算の重点事項

- 平成20年度農村振興局第2次補正予算の概要
 - ◇平成20年度農村振興局第2次補正予算の概要（地域活性化関連）

- 土地改良長期計画（H20～H24）の閣議決定について
 - ◇新たな土地改良長期計画の概要

- 美しい農村を守り育むために
 - ◇共同活動を通じた地域づくり（農地・水・環境保全向上対策の取組）

- 報告・お知らせ
 - ◇田園自然再生活動コンクール表彰式（田園自然再生セミナー）を開催
（1/16、17）

 - ◇【研修生募集中！】地域産業マネージャー育成研修（農林水産省補助事業）
（2/14）

 - ◇農山漁村活性化プロジェクト支援交付金 平成21年度活性化計画受付中
（2/16まで）

 - ◇農村コミュニティ再生・活性化支援事業のご案内

(公募期間：2月上旬～3月上旬(予定))

◇「集落支援員全国交流集会」開催のご案内(2/28)

◇「第6回全国ほんもの体験フォーラムinふくい」開催の御案内
(3/20～22)

◇「郷土料理大図鑑」が刊行されました



■ 農山漁村における雇用対策について

農林水産省は、現下の厳しい雇用情勢に対応して、農山漁村における雇用創出のための取組を機動的に進めるため、以下のような措置を講じています。

○本省、地方農政局、農政事務所に「農山漁村雇用相談窓口」を設置

地域の求職者に対して、農林漁業への就業相談に応じるとともに、雇用対策関連事業に関する情報提供をワンストップサービスで的確に行うため、本省、地方農政局、地方農政事務所に昨年12月24日に「農山漁村雇用相談窓口」を開設。

○農林漁業への新規就業促進等

「農山漁村雇用相談窓口」と農林漁業各分野の新規就業センター等との密接な連携の下に、農林漁業への新規就業を促進。また、雇用情報についても関係機関の協力を得て収集し、的確に提供。

○都道府県や関係団体に対する農山漁村における雇用対策への協力要請

昨年12月24日に農林水産大臣名により都道府県知事及びJAをはじめとする関係団体に対して農山漁村における雇用対策に対する協力を要請。

なお、1月13日より農林水産省の雇用対策の担当窓口は、大臣官房政策課から農村振興局農村計画課に変更となりましたので、お知らせします。

詳細は、次のホームページをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/j/koyo/index.html>

(農村計画課)

■ 平成21年度農村振興局予算概算決定の概要

◇平成21年度農村振興局予算の重点事項

農村振興メールマガジンでは、平成21年度農村振興局予算概算決定の概要を第46号（今号）と第47号（次号）の2回に分けて紹介します。

1. 国際的な食料事情を踏まえた食料供給基盤の強化

■重点1 食料自給率向上に向けた基盤・条件整備の推進

○経営体育成基盤整備事業【公共】～拡充～

一般型のうち農業経営高度化支援タイプ 2,000(0)百万円

基盤整備を契機とした効率的な経営体への農地利用集積の推進を通じて農地の有効活用を図るため、ほ場の大区画化や麦・大豆の作付けに不可欠な排水条件改良等の基盤整備と土地利用調整等への関連支援策を一体的に実施。

（担当：農地資源課経営体育成基盤整備推進室経営体育成事業企画班）

○農山漁村活性化プロジェクト支援交付金【非公共】～拡充～

34,915(30,546)百万円の内数

⇒新規需要米生産製造連携関連施設整備事業の創設 4,030(0)百万円

生産・流通・加工・販売の各段階における関係者の連携により確実な流通・消費を図る中で、米粉・飼料用米の低コスト化に必要な機械・施設等の一体的な整備を支援。

（担当：農村整備官農村整備事業班）

○農山漁村活性化プロジェクト支援交付金【非公共】～拡充～

34,915(30,546)百万円の内数

⇒産地振興追加補完整備 300(0)百万円

（担当：水資源課水利資源利用推進班）

○戦略的産地振興支援事業【非公共】～拡充～ 300(200)百万円

国産農産物の供給力を強化するため、実需者（加工・流通業者、食品製造業者等）と連携を図る産地を機動的な基盤整備や施設整備等により支援するとともに、基盤整備地区に関する情報を実需者に提供することにより産地と実需者の連携を支援。

（担当：水資源課水利資源利用推進班）

■重点2 担い手の育成と農地の有効利用、農業用水の安定的供給の確保

○ 水土里情報利活用促進事業【非公共】～拡充～

8, 097 (9, 699) 百万円

農地に係る各種情報を地図の上に一元化した農地情報図について、関係機関による共有化を着実に実施するため、引き続き地図の整備を推進するとともに、共有情報を円滑に運用する体制の構築を支援。

(担当：設計課農地情報化支援対策)

○ 水利区域内農地集積促進整備事業【公共】～新規～ 300 (0) 百万円

かんがい排水事業等による基幹的な農業水利施設の整備区域内において、末端の農業水利施設の整備と未整備農地の整備等を一体的に実施し、担い手への農地集積を促進。

(担当：水資源課水利資源利用推進班)

○ 地域農業水利施設ストックマネジメント事業【公共】～新規～

2, 000 (0) 百万円

広域に及ぶ農業水利施設の機能を効率的に保全するため、団体営事業等により造成された農業水利施設を対象としたストックマネジメントを推進。

(担当：水資源課施設保全管理室管理技術班)

■ 重点3 耕作放棄地解消に向けた取組の推進

○ 耕作放棄地等再生利用緊急対策【非公共】～新規～

23, 000 (0) 百万円

貸借等により耕作放棄地を再生・利用する取組（障害物除去・深耕・整地等、土壌改良、営農定着）やこれに付帯する農業用排水施設、鳥獣被害防止施設、直売所・加工施設、市民農園等の整備、農地利用調整、営農開始後のフォローアップ等の地域の取組を総合的・包括的に支援。

(担当：農地資源課、水資源課施設保全管理室管理技術班)

○ 農地環境整備事業【公共】～拡充～ 1, 245 (1, 193) 百万円

耕作放棄地の発生が著しい中山間地域の耕地面積が小さい集落においても、耕作放棄地を可能な限り取り込んで機動的に事業が実施できるよう、新たに「緊急耕作放棄地特別対策型」を創設し、耕作放棄地の早期解消を支援。

(担当：中山間地域振興課中山間整備推進室事業推進班)

○ 耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業【公共】～拡充～

1, 100 (1, 000) 百万円

(担当：農地資源課経営体育成基盤整備推進室経営体育成事業企画班)

次号では、「2. 地域資源の活用によるいきいきとした地域づくりの推進」及び「農山漁村からの低炭素社会の構築と地球環境問題への対応」に関する重点事項の概要をご紹介します。

詳細については、農林水産省ホームページをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/j/nousin/soumu/yosan/h21/index.html>

■ 平成20年度農村振興局第2次補正予算の概要

◇平成20年度農村振興局第2次補正予算の概要（地域活性化関連）

平成20年度農村振興局第2次補正予算のうち、地域資源の活用による地域活性化に関する事業の概要を紹介します。

○「田舎で働き隊！」事業（農村活性化人材育成派遣支援モデル事業）

990百万円

農村地域の活性化を担う人材の確保・育成を安定的に支える仕組みの構築に向け、農村地域が抱える課題の分析、活性化活動への従事を希望する都市部の人材の募集、農村地域と人材のマッチング、農村地域への人材派遣研修事業などに取り組む仲介機関を支援します。

事業のパンフレットやイメージについては次のホームページをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/zinzai/index.html>

(担当：都市農村交流課活性化企画班、定住促進班)

○農山漁村地域力発掘支援モデル事業

70百万円

農山漁村（ふるさと）地域力発掘支援モデル事業は、地域住民や都市住民等が主体となって行う地域資源の保全・活用を通じた活性化を目指すモデル的な取組を支援するものです。

先号でもお知らせしましたが、第2次補正予算では、本事業のモデル地区の追加採択と民間推進団体が行う地域活動推進事業（第三者委員会の運営、アドバイザー派遣等）を行うこととしています。

なお、追加採択するモデル地区の公募は1月23日（金）までで終了しました。

本事業の概要等は、農林水産省のHPをご覧ください。

http://www.maff.go.jp/j/nousin/soutyo/sien_model/

(担当：都市農村交流課活性化推進班)

○広域連携共生・対流等対策交付金

30百万円

子ども農山漁村交流プロジェクトの推進など都市と農山漁村の共生・対流の推進の加速化が求められていることから、都市と農山漁村との間の交流環境の整備や交流を通じたアグリビジネスの推進のため必要となる農林水産物直売所等の整備について支援します。

現在、本事業を実施する民間団体等を募集中です（締切は1月30日まで）。詳細は、次のホームページをご覧ください。

http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/081226_1.html

(担当：都市農村交流課グリーン・ツーリズム班)

■ 土地改良長期計画（H20～H24）の閣議決定について

◇新たな土地改良長期計画の概要

土地改良長期計画は、土地改良法の規定に基づき、事業の計画的実施に資するため、5ヵ年を一期としてこれを定めることとなっており、平成20年度を

初年度とする新たな土地改良長期計画が、昨年12月26日に閣議決定されました。

現在、国際的な食料事情の不安定化や農村地域の過疎・高齢化等を背景として、我が国の食料・農業・農村を取り巻く環境が深刻さを増す中で、食料自給率の向上や農村地域の活性化が大きな課題となっております。

このような課題に対し、新たな土地改良長期計画では、「自給率向上に向けた食料供給力の強化」、「田園環境の再生・創造」、「農村協働力の形成」の三つの

視点から、土地改良事業を計画的かつ総合的に進め、食料・農業・農村をとりまく現下の課題に対する国民・消費者の要請・期待に応えていくこととしております。

詳細な内容は次のホームページからご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/j/press/nousin/keityo/081226.html>

(設計課計画調整室長期計画班)

■ 美しい農村を守り育むために

◇共同活動を通じた地域づくり（農地・水・環境保全向上対策の取組）

～岐阜県瑞浪市陶（すえ）町大川地区『こま犬の里ふれあい協議会』～

瑞浪市は、濃尾平野の北東部にあり、美濃焼で有名な陶磁器産地として栄えてきた商工業都市です。

窯業が盛んな地域ということもあり、協議会構成員は農業者 88 人に対し非農家 210 人と、非農家が 7 割を占める構成になっています。

この協議会では、このような窯業関係の移住者と古くから住んでいる農業者等と一緒に地域づくりを目指しています。

大川地区では昭和 49 年から実施したほ場整備事業を契機に、昭和 51 年に「大川機械化営農組合」を設立し、農作業の受委託や生産調整などを地域一団として取り組んできました。

しかし、高齢化の進展により、ため池や水路の維持管理が大変になってきたことから、地域ぐるみで大川の自然（農地・川・水路）を守り、心ふれあう明るく住みよい環境を創るため、本対策を開始しました。

この協議会の構成組織は、自治会、営農組合、長寿クラブ、婦人部、子供会等ですが、活動に当たっては農地部会、景観資源部会及び生態系部会の 3 つの部会を設置し、各部会で役割を分担しています。

農地部会は営農組合と自治会で構成され、施設の点検、補修並びに農道、水路の法面、ため池周辺の草刈りや農道の整備を担っています。

景観資源部会は長寿クラブと婦人部で構成され、景観形成・生活環境計画に取り組むほか、農道や水路の法面への植栽を行う等、地域の人達に四季折々の景色を提供しています。

生態系部会は3つの子供会やお囃子保存会等で構成され、地域を流れる大川の観察会を通して、川や水路に棲む沢山の生物を守っていくことの大切さを子供達に教えています。

また、協議会では、新しいメンバーを呼び込むため、協議会だよりを発行して、広く活動状況を発信しています。

大川地区では、本対策を契機として、さらに広がりともとまりのある地域づくりが進むことが期待されます。

(農地資源課農地・水・環境保全向上対策室企画班)

■ 報告・お知らせ

◇田園自然再生活動コンクール表彰式（田園自然再生セミナー）を開催
（1/16、17）

1月16日（金）～17日（土）に、平成20年度田園自然再生セミナーが国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）において開催されました。

16日には「第6回田園自然再生活動コンクール」表彰式が、石田農林水産副大臣、吉村農村振興局長、飯高農村政策部長、受賞団体等関係者及び一般参加者を含め約150名の参加の下、行われました。

表彰式では、農林水産大臣賞をはじめとした7賞の授与が行われました。その後、有識者による座談会が行われ、活動を更に深めていくためにはコミュニ

ティビジネスに結びつけることも視野に置くことが重要等、会場を交えながらの活発な意見交換が行われました。

17日には、里地ネットワーク事務局長の竹田純一氏より「トキの野生復帰に向けた自然再生の取組」についての講演が行われた後、受賞団体の中から

様々な専門家と関係を持ちながら活動を展開している4団体の代表者をパネリストに、活動における専門家との関わり方についてディスカッションが行われ、

・環境に良かれと思いついて行っている活動でも、環境破壊に結びつきかねない場合があり、専門家を活用し活動の方向性を確かめながら展開していくことが重要であること

・地域にも教育（先生）、事務（行政経験者）など様々な分野の専門家が存在していること

・農業者も農業の専門家であることから、お互いに専門分野を活かしながら活動を展開することが、活動内容の向上に有効であること

などが確認されました。

（農村環境課生物多様性保全班）

◇【研修生募集中！】地域産業マネージャー育成研修（農林水産省補助事業）
（2／14）

本事業では、農村地域の活性化に取り組みたいと考えている方等を対象に、地域づくり・産業振興に向けて地域をリードし主体的に活動する人材「地域産業マネージャー」の育成を目的とした研修会を開催しています。

今回ご紹介するのは、全5回の研修会のうちの最後の研修会になります。主に行政職員向けの内容を予定しておりますが、それ以外の方の参加も歓迎します。

○中央研修会 日時：平成21年2月14日（土）
（後半2） 場所：八重洲ダイビル第2会議室（東京駅八重洲口）

本研修会へ参加するには、事前申し込みが必要となりますので、参加を希望される方は、お早めにお申し込みください。詳細は、次のホームページをご覧ください。

<http://www.landbrains.co.jp/hitodukuri/chiiki/index.html>

【問い合わせ先】ランドブレイン株式会社

電話：03-3263-3811（代）

（都市農村交流課定住促進班）

◇農山漁村活性化プロジェクト支援交付金 平成21年度活性化計画受付中

(2/16まで)

農山漁村活性化プロジェクト支援交付金は、定住や二地域間居住、都市との地域間交流の促進により、農山漁村地域を活性化することを目的に、地方公共団体が作成する活性化計画について、その内容を実現するために必要な取組を総合的かつ機動的に支援する交付金です。

平成21年度予算において、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金を活用した事業の実施を希望されている地区につきまして、活性化計画の募集を2月16日(月)まで行っております。

提出書類や提出方法等の詳細については、以下のホームページをご覧ください。

http://www.maff.go.jp/j/kasseika/k_project/teisyutu.html

(農村整備官農山漁村地域活性化支援室)

◇農村コミュニティ再生・活性化支援事業のご案内
(公募期間：2月上旬～3月上旬(予定))

定住者を増やしたい！特産品を使って地域の活性化を図りたい！と考えている皆様、農村コミュニティ再生・活性化支援事業が応援します。

【農村コミュニティ再生・活性化支援事業とは】

農村コミュニティの再生・活性化に取り組む、NPO法人、農協、商工会議所、土地改良区、地方公共団体が出資する団体等の活動に対し、国が経費の1/2以内を補助するものです。

【農村コミュニティ再生・活性化支援事業でできること】

都市から農村への定住等の促進や地域産業との連携の推進に向けたワークショップや交流会の開催、PR活動、試作品の作成やマーケティング調査等

【お問い合わせ先】

農林水産省農村振興局都市農村交流課
電話：03-3502-5948

※公募の受付はお近くの各地方農政局農村振興課、沖縄総合事務局土地改良課、農村振興局都市農村交流課（北海道）で行います。

【農村コミュニティ再生・活性化支援事業ホームページ】

<http://www.maff.go.jp/j/nousin/nouson/community/index.html>

（都市農村交流課定住促進班）

◇「集落支援員全国交流集会」開催のご案内（2／28）

「補助金」ならぬ「補助人」を！そんな地域からの声に応える今話題の「集落支援員」制度が3月から始まります。

集落支援員は、市町村職員と連携しながら、①集落の状況把握・点検、②コーディネーター、アドバイザーとして集落の話し合いの促進、③話し合いの結

果を踏まえた集落の維持・活性化策のサポート等を主な仕事とし、市町村職員OBだけでなく、NPO関係者ら地域の実情に詳しい集落内外の人材が登用される見込みです。

本制度では、集落支援員の人件費等の経費を国が支援しますが、雇用条件や仕事の中身等は市町村に任せられます。

この度、厳しい状況にある農山村地域の集落等の再生への期待をこめて、この制度を大事に育て、大きな流れを作っていくための第一弾として、集落支援員全国交流集会が開催されます。

○日 時：2009年2月28日（土）13時30分～17時

○会 場：明治大学リバティータワー1階（教室番号1012）

（東京都千代田区神田駿河台1-1、御茶ノ水駅の近く）

○内 容：甲斐良治氏（農文協「増刊・現代農業」編集長）による基調講演など

本フォーラムに参加するには、事前申し込みが必要ですので、参加を希望される方は、次のホームページよりお申し込みください（会場の都合で定員になり次第締め切らせていただきますのでお早めにお申し込みください）。

<http://www.chusankan-f.net/>

【問い合わせ先】中山間地域フォーラム事務局：遠藤

電話：029-838-7607

(中山間地域振興課調査調整班)

◇「第6回全国ほんもの体験フォーラム in ふくい」開催の御案内
(3/20~22)

平成21年3月20~22日の3日間、福井県美浜町を中心に「第6回全国ほんもの体験フォーラム in ふくい」が開催されます。

本フォーラムは、体験型観光の先進地や各旅行会社の方々を招き、開催地の価値の再発見と全国に誇れる「ほんもの体験」の普及のため、その理念や手法

について学ぶとともに、体験型観光の適地として全国に強くアピールすることを目的に開催されます。

- 20日午後 体験ツアー（プレイベントツアー） 会場：福井県内各地
- 21日午前 体験ツアー（プレイベントツアー） 会場：福井県内各地
午後 全体フォーラム 会場：美浜町総合体育館
- 22日午前 課題別研究分科会 会場：敦賀市、美浜町、若狭町

本フォーラムへ参加するには、事前申し込みが必要となりますので、参加を希望される方は、お早めにお申し込みください。詳細は、次のホームページをご覧ください。

<http://www.heartful-mihama.com/2008/10/23/#000108>

(北陸農政局農村振興課)

◇「郷土料理大図鑑」が刊行されました

日本の郷土料理は、全国各地の農山漁村で受け継がれてきた食文化の代表であり、それぞれの地域の風土や歴史の中で個性を生かしながら創意工夫され、その美味しさとともに地域の誇りを育んできました。

農林水産省では、こうした全国の郷土料理を紹介することにより、農山漁村における身近な郷土料理の再認識と、広く国民の農山漁村への関心を高める機会となるよう、平成19年12月に「農山漁村の郷土料理百選」を選定しました。

この度、PHP研究所からこれら郷土料理百選等を写真とともに紹介した「郷土料理大図鑑」が刊行されました。向笠千恵子先生（フードジャーナリス

ト、エッセイスト）監修のこの書は、小学生向けにわかりやすくまとめられており、郷土料理を通して、47都道府県それぞれの特産物・食習慣・歴史文化

等を学ぶことができ、食育学習にも役立つ一冊です。興味のある方は是非ご購入（税別2,800円）下さい。

詳細は次のホームページをご覧ください。

<http://www.php.co.jp/bookstore/detail.php?isbn=978-4-569-68920-3>

（都市農村交流課活性化企画班）

◆◆ 編集後記 ◆◆

新年が明けてから1カ月が過ぎようとしています。2009年は、ガリレオ・ガリレイが天体望遠鏡を用いて初めて天体観測を行ってから400年がたつことから、「世界天文年」と定められているそうです。これは、人々に天文学と宇宙への関心を持ってもらうことを目的に国際天文学連合等によって企画されたものです。

日本国内でも様々なイベントが予定されているようですので、関心のある方は、参加してみたいかがでしょうか。また、宇宙に関心のある方もない方も今夜、星空を眺めてみてはいかがでしょうか。（M）

◆◆ ご意見をお寄せ下さい ◆◆

本メールマガジンに対する皆さまの声をご遠慮なくお寄せください。また、皆さまの地域での活動や取組の紹介などもお願いします。皆さまからのご質問・ご意見、地域の活動などの情報につきましては、可能なかぎり回答あるいは紹介させていただきます。

本メールマガジンに関するご質問・ご意見等については、次の農村振興局「ご

意見・お問合せ窓口」のサイトから送信をお願いします。その際、様式の「テーマ」欄には“農村振興メルマガ宛”を必ず記載してください。

https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM_NO=12

農村振興メールマガジンのバックナンバーは次のサイトでご覧いただけます。

<http://www.maff.go.jp/nouson/maimagazine/index.html>

■ 編集発行

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局農村政策部農村計画課（担当）増田

TEL:03-3502-6001 FAX:03-3501-9580
